

7 小中合同研修について

1 研究主題

自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成
～学びの連続性を意識した教育活動を通して～

2 研究の目的

1 小中一貫教育推進における課題

(1) 小中一貫教育の必要性(合志市の教育目標から)

合志市では、全ての小・中学校で小中一貫教育を推進している。合志市の具体的実践事項の重点事項にも「中学校区における学びの連続性を活かした小中一貫教育の創造」が掲げられている。「志合わせて夢実現プロジェクト」の中の「小学校が中学生に憧れをもつこと」や「小中一貫教育の柱として」という言葉が表すように、子どもが主体的に育っていくためにも小中一貫教育の推進は欠かせないものである。小学校から中学校への進学の際に新しい環境や学習等への戸惑いを感じ、不登校やいじめが起る現象(中1ギャップ)は、どの学校でも課題となっている。今日的な課題から考えても、子どもが主体的に小・中学校と繋がりを持って自ら学びを進めていくための小中一貫教育の研究が求められている。また、小中一貫教育を推進することは、少子化や核家族の進行する中で多様な他者との関わりを増やすことにも繋がる。多様な他者との関わりは、児童生徒の自尊感情を高め、夢に向かって取り組むことができる人材の育成に大きく関わると言える。

(2) 昨年度の取組から

開校から間もなく、同じ敷地内に小・中学校があるというだけでは、小中一貫教育が思うように進んでいかないことを痛感した。小学校と中学校では、物理的な時間の流れや学習内容、様々な組織体制や取り組み方が大きく異なっていた。また、発達段階によって、教職員が思い描く学習指導や生徒指導の方法が大きく異なっている。そのため、「小学校だから」「中学校だから」という考え方の違いを感じる場面があり、小学校と中学校の学校文化の相違に戸惑う教職員も多かった。そこで昨年度までは、「カリキュラムマネジメント・ハンドブック」(田村知子/2016)を参考に、「組織構造」と「学校文化」に着目し、違いがあることを前提とした小中一貫教育推進のための土台づくりに力を注いだ。その結果、共通の組織構造の設定の有効性が分かり、少しずつ小・中学校あわせた新たな学校文化の醸成が進んできた。共通実践も進み始めたが、田村が述べる『一人一人の教師が学校としての目標やカリキュラムを十分に理解し納得した上で、主体的・自律的に実践に取り組めるようにマネジメントする¹⁾』ところまでは至っておらず、単に小・中学校で共通実践を行うのではなく、その必要性を実感しながら実践に移していくことの必要性が明らかになった。

今年度の小学校の教育目標は「夢を持ち 自分で考え よりよく行動できる子どもの育成」、中学校の教育目標は「夢と誇りを持ち、自分らしく主体的に考えて行動生徒の育成」である。どちらの教育目標も主体的に考えて行動できる児童生徒の育成を目指すという点で繋がりを持っているため、中学校区の教育目標を「自他の存在を大切にし、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成～学びの連続性を意識した教育活動を通して～」と設定した。単に共通実践を行うにとどまらず、真の小中一貫教育の推進には何が必要なのかを模索すべく、教職員や児童生徒が教育目標を理解し納得した上で「学びの連続性」に着目して実践していくことを目指す。

3 研究の仮説

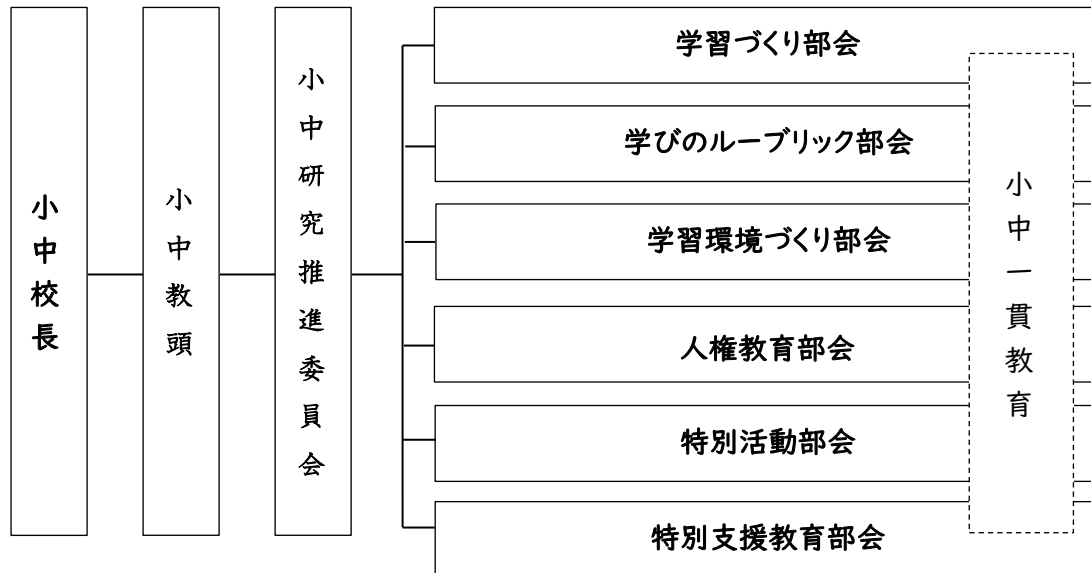
(1) 研究の仮説

<p>仮説1 共通組織構造の実施および学校文化の醸成</p> <p>共通化された小・中学校のカギになる「組織構造」を実施し児童生徒同士が交流したり協働したりする場面や多様な教職員との関わる機会を実施し、教員同士がお互いのズレを理解し、良さに気づき、協力しながら9年間の学びの連続性を意識して児童生徒をみんなで育てていこうというあたたかい「学校文化」の醸成を図ることで、自他の存在を大切に、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。</p>
<p>仮説2 学びの連続性を意識した授業づくり</p> <p>仮説1（小中一貫教育推進の大切な土台となる両軸）を同時進行で行いながら、単元配列表や学びのルーブリック（児童生徒に身に付けさせたい資質・能力）を意識し、9年間の学びの連続性を意識した授業づくりを行うことで、自他の存在を大切に、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。</p>
<p>仮説3 3つの力を意識した共通実践事項の実施</p> <p>昨年度作成した学びのルーブリックを小・中学校教職員と児童生徒が共有し、9年間の学びの連続性を意識し学習環境を整え、特別活動、人権教育などの教育活動で実践・改善を繰り返していくことで、自他の存在を大切に、自ら考え、自ら行動できる児童生徒の育成ができるであろう。</p>

(2) 育てたい子どもの姿・キーワード

○やりぬく力 ○伝える力 ○協働する力

4 研究組織

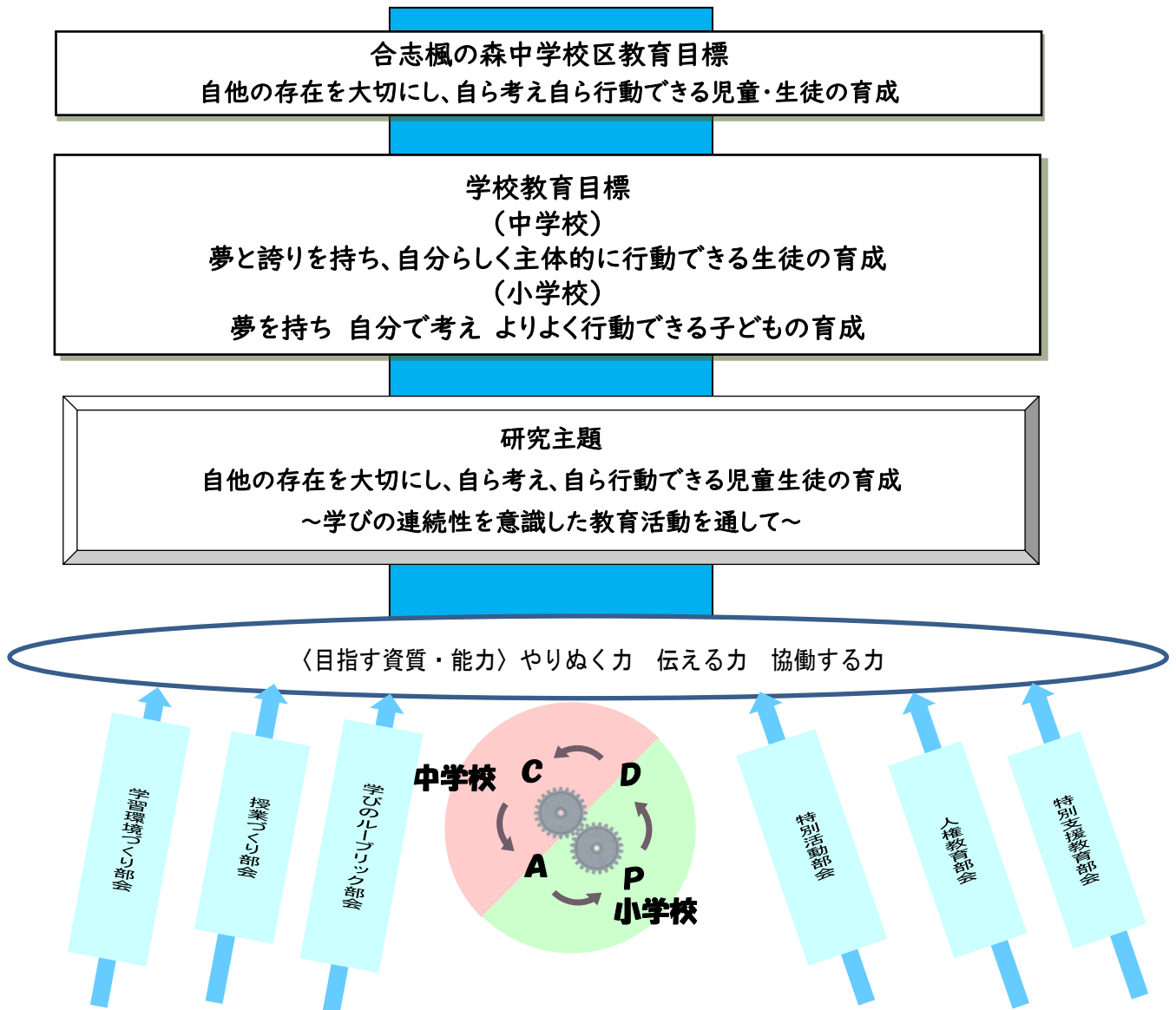


5 研究の視点・取組の内容

中部会	具体的な取り組み内容
授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力（教科の本質+3つの力）を身に付けさせるための授業づくりの推進 ・小中合同の教科部会の運営 ・構想案の検討
学びのルーブリック	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのルーブリック（やりぬく力、伝える力、協働する力）の作成や浸透の手立て

学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・声のものさし、5つの心得の徹底 ・UDの視点をもとにした学習環境づくり
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にする活動の提案 ・たてわり人権集会の運営
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの力の育成の取組 ・小中合同での委員会活動の実施、話し合いの進め方、縦割り活動
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の視点から、学びの連続性、3つの力の育成・活用を目指す

6 研究の構想図



7 年間計画

回	月	日	曜	担当	コマ	研究	研修
1	4	4	月	研究部 部会リーダー	1 (60分) 多目的	(1)実態+今年度の方向性(研究部+6つの部会より)【40】*リーフレットを使用 (2)研究に向けての概要【5】(授業者・教科についてなど)総合? 道徳? (3)6つの部会①(顔合わせ・徹底に向けて)【15】	
★	4	10	水	人権教育	2		菊池恵楓園 園長講話
2	4	24	水	部会リーダー	2	(1)6つの部会から共通実践事項の共有【45】	

				特別活動	多目的	(2) 研究を踏まえて特活部会から提案(5分間プレゼン発表構成案など) (3) 小中合同委員会部会①(発表構成、リーダー決めなど)	
3	5	1	水	研究	2	◎大研 学習構想案+3つの学びの連続性を意識した授業づくりの提案	
★	5	22	水	保健	2	心肺蘇生の講話・演習 小:5時間目 中:6時間目	
★	5	29	水	人権教育		人権について	
5月27(月)～第1回 小中一貫推進ウィーク【小学校】 3つの学びの連続性を意識した授業づくり							
4	6	5	水	研究部・ 授業づくり	2 多目的	(1) 研究を踏まえて授業づくり部会から提案(授業後研の流れなど) (2) 小中教科部会①(単元配列表の共有、各教科の課題を踏まえ、学びの連続性をどのように実践していくかなど) (3) 授業者同士で意見交換	
★	6	12	水	特別支援	2		個別の支援計画作成
★	6	14	金	人権教育			市人推協公開授業研(本校)
5	6	26	水	部会リーダー	1	6つの部会②(進捗状況確認・リーフレット・10分間のプレゼン作成)	
6月24(月)～第2回 小中一貫推進ウィーク【中学校】 3つの学びの連続性を意識した授業づくり							
6	7	3	水	特別支援	2	UD 研修(小学校、中学校から授業公開?)	
7	7	10	水	特別活動	1	小中合同委員会部会②(進捗状況確認・5分間のプレゼン作成)	*リーフレット(6つの部会) 9月4日(水)メ切り *プレゼン(委員会・6つの部会) 9月18日(水)メ切り
8	7	22	月	部会リーダー	2	6つの部会③(進捗状況確認・リーフレット・10分間のプレゼン作成)	
				人権教育			
9	7	23	火	特別活動	2	小中合同委員会部会③(進捗状況確認・5分間のプレゼン作成)	
					1	小中教科部会② 学年ごとに集まり、授業アイデアを出し合う 中学は教科ごと?	
★	8	18	日	人権教育			合志市人推協夏期講座
★	8	22	木	人権教育			実践レポート研修会、共通教材学習会
10	8	23	金	授業づくり	2	小中教科部会③ 授業検討会 授業者の学習構想案(略案)を基に、当日の授業についてアイデアを出し合う (1)前半:小学校の授業 (2)後半:中学校の授業	
8月27日(火) 第2回 部会リーダー会							
11	9	4	水	研究部 授業づくり	2	(1)アンケート結果共有+今年度の方向性(研究部+6つの部会より) (2)研究発表の詳細・役割分担	*リーフレット(6つの部会) 9月4日(水)メ切り *プレゼン(委員会・6つの部会) 9月18日(水)メ切り
12	9	11	水	部会リーダー	2	6つの部会④(進捗状況確認・10分間のプレゼン作成)	
				特別活動		小中合同委員会部会④(進捗状況確認・5分間のプレゼン作成)	
★	9	25	水	特別支援	2		
9月24(月)～第3回 小中一貫推進ウィーク【小学校】							
13	10	2	水	研究部	2	リハーサル(子どもたち)←委員会ごと・準備	
14	10	9	水	研究部	2	5・6時間目(小中):リハーサル・準備 7時間目(中):学年会	
15	10	23	水	研究部		リハーサル・準備	
10月25日(金) 研究発表							
16	10	30	水	研究部	1	研究発表の振り返り・リーダー会	
17	11	6	水	部会リーダー	1	論文作成に向けて	

★	11	13	水	人権教育			市人推協公開授業研
★	11	27	水	保健	2		心の健康
11月25(月)～第4回 小中一貫推進ウィーク【中学校】							
18	12	4	水	特別活動	1	小中合同委員会部会⑤	
19	12	11	水	授業づくり	1	小中教科部会④ *中2振替休日	
20	1	15	水	研究部	1	アンケート結果共有+今年度の方向性(研究部+6つの部会より)	
21	1	29	水	特別支援	2	UD研修(小学校、中学校から授業公開?)	
22	2	5	水	研究部	1	県学調の結果分析・入力	
23	2	12	水	研究部	1	5・6時間目(小学校):学年レポート研 5・6時間目(中学校):結果共有・学年ごとに対策を考える	
★	2	26	水	人権教育			学年レポート研(中学校)
24	3	5	水	研究部	2	初任者実践報告会 + 実践レポート共有	
25	3	12	水	特別支援	2		個別の支援計画